

パート2 < 中学校編 >

実践例・カリキュラムプラン例（府内 B 中学校）

21世紀に向けた『生きる力』の育成
メイク・ザ・フューチャー ドラマのある学校
～ 豊かな自己表現力を深める ～

1	研究の方向	72
2	カリキュラム開発の視点から	72
	(1) 学校・生徒・地域の実態を踏まえる	
	(2) 学校教育目標と目指す生徒像	
3	「総合的な学習の時間」のねらいと計画	74
	(1) ねらいと育てたい力	
	(2) 推進体制	
	(3) 教育課程における位置付け	
	(4) 内容と単元構成	
	(5) 年間計画	
	(6) 地域との連携	
4	「総合的な学習の時間」の展開例	
	- 「2年生福祉・職業体験学習の取組」から -	81
	(1) 学習課題の設定	
	(2) 学習計画と活動の工夫	
	(3) 身に付けたい力と教師の支援	
	(4) 学習環境の工夫と整備	
	(5) 評価の観点と評価の実際	
	(6) 指導上の留意点	
5	「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム評価と改善に向けて	90
	(1) 単元カリキュラムの評価と改善	
	(2) 「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム評価の観点	
	(3) カリキュラム改善への視点	
	(4) 次年度に向けた改善事項	

1 研究の方向

21世紀に向けた『生きる力』の育成
メイク・ザ・フューチャー ドラマのある学校
～ 豊かな自己表現力を深める ～

「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムを編成し円滑に実施するには、それまでの校内研究や特色ある学校づくりの取組を生かし、発展させることが大切である。

本研究では、研究協力員として協力ねがっている学校における「総合的な学習の時間」の具体化への取組を基に、「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム開発のプラン例を示した。

なお、研究主題の「メイク・ザ・フューチャー ドラマのある学校 ～豊かな自己表現力を深める～」は、社会の急激な変化に対応し21世紀をたくましく生きる生徒の育成を目指して研究協力員所属校で取り組まれた「21世紀プロジェクト」を発展させたものである。

2 「カリキュラム開発」の視点から

(1) 学校・生徒・地域の実態を踏まえる

特色ある学校づくりとして、開校以来22年間、「自主・友愛・礼節」を校訓に健全で個性豊かな生徒の育成を目指して教育活動が展開されてきた。「自ら学ぶ意欲」を主題とした教育課程研究指定校としての実践や特色ある学校づくりとして進められてきた「21世紀プロジェクト」の取組を「総合的な学習の時間」のカリキュラムにどう展開していくか検討を進めた。

開校後の生徒数急増期を経て生徒数は漸減し、現在15学級（4 + 5 + 5 + 障1）、教職員数28名の規模となっている。その中で全教職員が協力できる組織体制づくりを進めた。

全般に純朴で協調性があり活動に積極的に参加できる生徒の長所を生かすとともに、課題と考えられる達成志向、主体性、自己表現力などの育成を図るために、「自ら学び、自ら考え」「自己を豊かに表現でき」「豊かな人間性と社会性に富んだ」生徒を育成することを目指した。また、取組を通して生徒指導面で揺れる生徒にも対応できるよう配慮した。

校区は近郊農村地域と新興住宅地域から成り、校区にある豊かな自然・文化環境や地域の産業・諸施設、保護者や地域住民の学校への期待や協力等を十分に活用できる取組を目指した。

(2) 学校教育目標と目指す生徒像

「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム開発に当たって、教育目標及び「21世紀プロジェクト」との関連を明確にした。教育目標及び生徒の実態を踏まえて、21世紀をたくましく生き抜く生徒像を「自己をしっかりともち、よく考え、自己を豊かに表現できる生徒」ととらえた。そして、「豊かな自己表現力の育成」を平成12年度研究主題として「21世紀プロジェクト」を展開する中で、「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムの具体化を図った。

【教育目標】

知・徳・体の調和のとれた教育を展開し、生涯にわたる学習の基盤を培い、校訓に示す心身ともに健全で個性豊かな生徒の育成を目指す。

＜校訓＞	1 自主	意欲的に学ぶ生徒	積極的に行動する生徒
	2 友愛	助け合い励ましあう生徒	人権を尊重し生命を大切にする生徒
	3 礼節	礼儀正しい生徒	規律ある生活をする生徒

< 社会の急激な変化に対応し21世紀をたくましく生き抜く生徒像 >
 「自己をしっかりともち、よく考え、
 自己を豊かに表現できる生徒」

21世紀プロジェクト

平成12年度研究主題 「豊かな自己表現力の育成」

「自ら学び、自ら考える」
 「自己を豊かに表現できる」
 「豊かな人間性と社会性に富んだ」

} 生徒の育成

< 校内研究の構想 >

21世紀プロジェクトの構想

子どもたち 一人一人の夢の実現

「生きる力」

個性（創造性）を伸ばす
 自分で考え、自分でやりとげる力を育てる
 豊かなふれあいで豊かな心を育てる
 （社会に出て、社会から学ぶ）

豊かなふれあいで豊かな心を育てる

人を思いやる心

古切手を回収しネパールの教育施設へ（生徒会）
 老人ホーム慰問、独居老人への手紙（生徒会）
 親子ふれあいクリーンキャンペーン（PTA等）
 人権学習

人との出会いから学ぶ心

企業訪問、高校訪問（校外学習）
 社会人講師から学ぶ（選択学習）
 地域の人々から学ぶ（地域での体験学習）

人に思いを正しく伝える心

指導の5つの重点
 ・あいさつ、ことば遣い
 ・学習環境の整備（掲示物の工夫、整理整頓）
 ・生徒が前に立つ場面を増やす
 ・自分の思いを書く機会を増やす
 ・ボランティア活動（BS）への参加

情報機器についての理解

自分で考え、自分でやりとげる
 力を育てる

基礎的・基本的な
 知識理解、技術の
 確実な定着

学習課題を
 自分で見付
 ける

教材を自分
 で見付ける

自分で考える

自分で解決
 みんなで解決

自分なりに自己表現
 豊かに自己表現

自己評価・相互評価

場
 ・
 指導
 ・
 方法

「豊かに」: 広く、深く、感情を込めて
 「表現」: 書く、描く、作る、発言する、
 まとめる、行動する

< 校内研究の経緯 >

個性(創造性)を伸ばす

興味・ 関心	個性・ 創造性	自己 実現
-----------	------------	----------

あれをしたい
これをしたい
を大切にする学習

学習の中でさまざまな工夫

- コ・ス別学習
- 習熟の程度に応じて学習方法を変えたコース別学習
- 興味・関心に応じて課題解決をするコース別学習(ティーム・ティーチング)各学年行事

「総合的な学習の時間」

生き方を学ぶ
学び方を学ぶ

選択学習

- 興味・関心に応じて選択し、自分達で学習する -

第2学年・・・週1時間
【音楽、美術、体育、技術・家庭】

第3学年・・・週2時間
【音楽、美術、体育、技術・家庭、
国語(国文学コース、国際理解
コース)、社会、数学、理科】

クラブ(部)活動

- 興味・関心を同じくする異年齢の生徒が集まり、自主的に活動する -

平成9年度 (1997.4.1~1998.3.31)
《生徒へのテ-マ》

「ドラマは誰がつくるか」

「友達、学習、校外学習、体育大会・・・
ドラマはどこにでもある。ドラマの主人公は君だ！」
*11月22日 学校公開

平成10年度 (1998.4.1~1999.3.31)
《生徒へのテ-マ》

「学校20歳のドラマ」

「- 学校創立20周年 -
20歳にふさわしいドラマをつくろう・・・
思いを発信するのは君だ！」
*11月7日 創立20周年記念式典

平成11年度 (1999.4.1~2000.3.31)
《生徒へのテ-マ》

「21世紀に向けたドラマ」

「新しい世紀がまもなくやってくる・・・
21世紀は世界の人々と、自然と、共生する
心豊かな社会。そんな社会をつくる取
組をしよう！」
*11月6日 学校公開

平成12年度 (2000.4.1~2001.3.31)
《生徒へのテ-マ》

「新しい時代の創造」

「いよいよ新しい世紀がやってきた！
21世紀の世界や日本をつくる主役は君たちだ・・・
『生き方』と『学び方』を学ぼう！」
*11月4日 学校公開

3 「総合的な学習の時間」のねらいと計画

(1) ねらいと育てたい力

『生きる力』を「自己学習力」「豊かな人間性」「健康や体力」の総体としてとらえ、「総合的な学習の時間」でもその育成を図る。そのために、豊かな自己表現力の育成を目指す「21世紀プロジェクト」の取組を整理しつつ、環境、国際理解、情報等の今日的な課題を踏まえて総合化し、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成することとした。

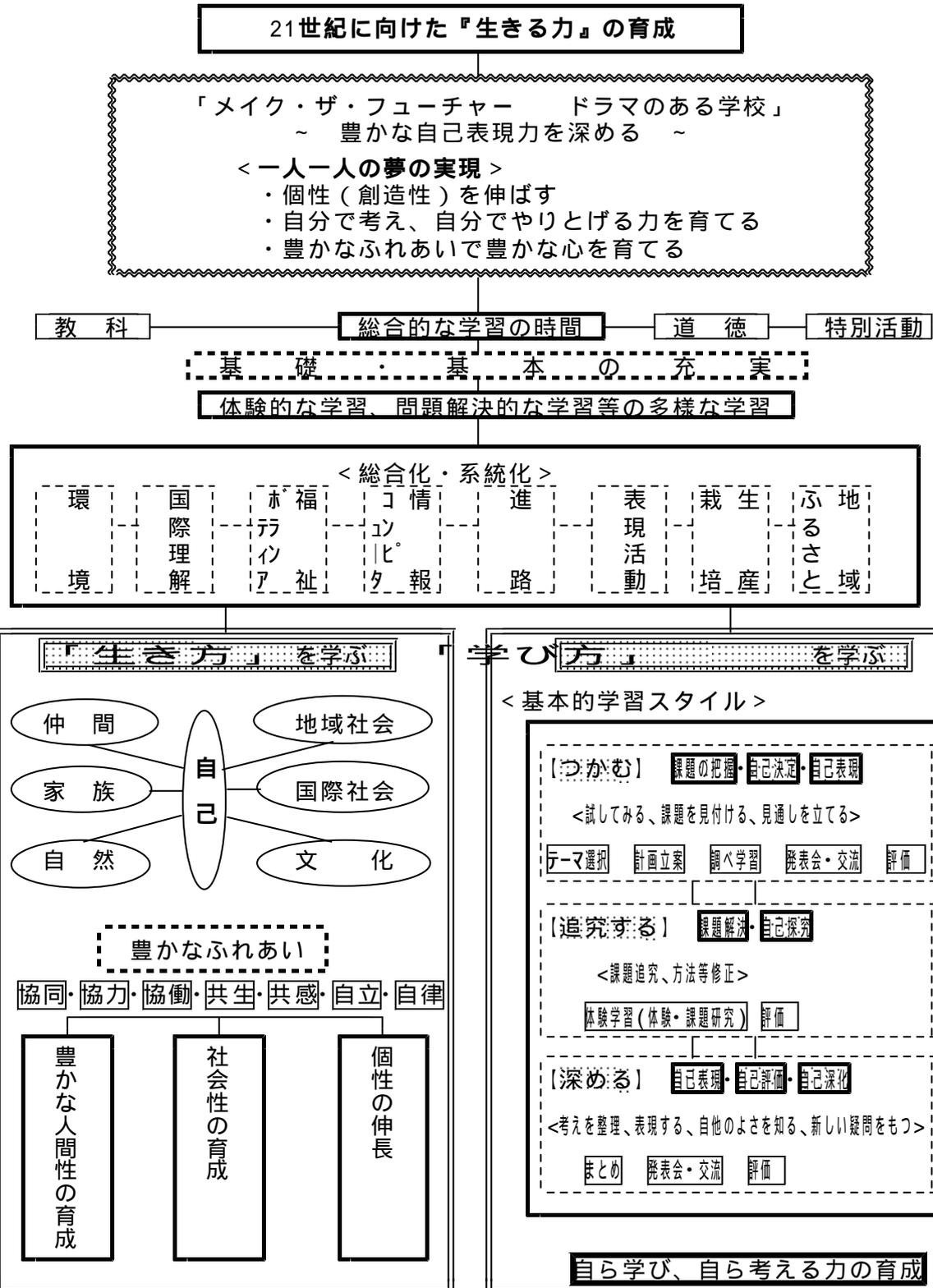
そこで、「総合的な学習の時間」の目標を、「生き方」を学ぶ、「学び方」を学ぶ、に設定するとともに、その中で生徒が自己実現を図る学びの視点を六つに整理した。次ページにその構想を示す。

[総合的な学習の時間の目標]

「生き方」を学ぶ・・・豊かなふれあいの中で豊かな人間性を育成する

「学び方」を学ぶ・・・生涯学習体系の基礎として、学び方や考え方等の基本的な学習スタイルを身に付ける。

[総合的な学習の時間の全体構想]



[生徒の自己実現を図る学びの視点]

生徒の主体的な活動の重視

今日的課題や生徒の興味、関心に応じた学び

体験活動（＝情意・認知の両面を重視した活動）を重視した学び

全身で「体験」し、その経験を言葉や形に「表現」し、他人と経験の豊かさを伝え合う中で自分自身を振り返る、「自分探し」であるとともに「共同体」づくりの学び

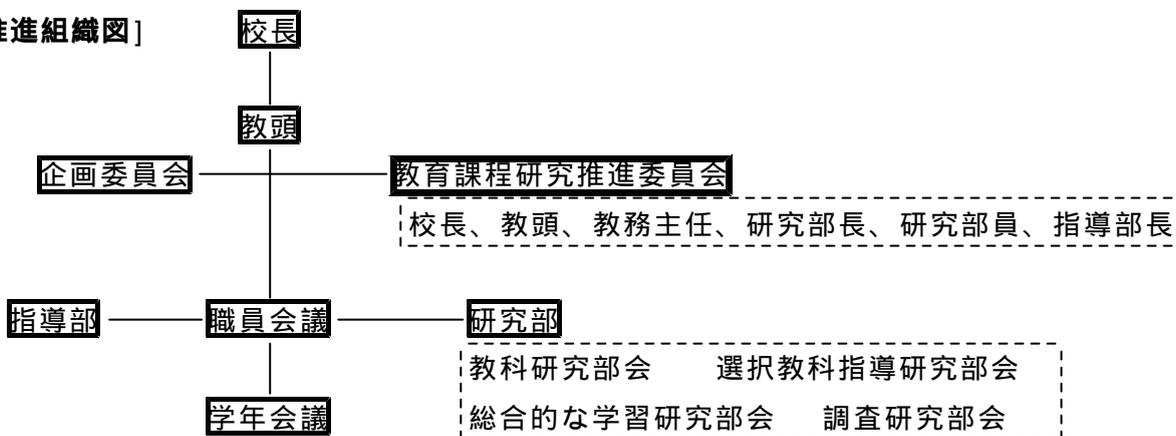
各教科で培った基礎・基本をさらに発展、充実させる学び

自然や地域の人々、文化とのふれあいを重視した学び

(2) 推進体制

「総合的な学習の時間」を含む教育課程全般については、従来から校内研究推進の中核となってきた「教育課程研究推進委員会」が構想・計画し、全教職員に提起して共通理解を図りながら実施することとした。

[推進組織図]



また、「総合的な学習の時間」の実践に至る道筋として次のような手順を経て取組を進めた。特に、組織が有効に機能するよう「PDSサイクル（計画 実践 評価）」のプロセスを重視し、カリキュラム開発の視点で取組を進めることに努めた。

内 容	組 織	時 期
計画、立案	総合的な学習研究部、教育課程研究推進委員会	前年度11月～
全体討議、修正	校内研修会、職員会議	前年度11月～
実践への計画	学年総合学習係、学年会議	実施年度4月～
実施	学年部中心	実施年度5月～
評価、検討	学年会 教育課程研究推進委員会 校内研修・職員会議	夏季校内研修 実施後
改善、見直し	総合的な学習研究部 教育課程研究推進	実施年度11月

(3) 教育課程における位置付け

平成12年度教育課程編成の重点事項を設定し、その具体化を図る上での重点課題として「総合的な学習の時間」を配当した。

[平成12年度教育課程編成の重点事項]

研究テーマ「豊かな自己表現力の育成」に迫る実践の構築

基礎・基本の充実

「総合的な学習の時間」の積極的試行と実践

平成14年度新学習指導要領全面实施に向けた円滑な移行

地域・社会に開いた特色ある学校づくり

学 年	総合的な学習の時間	備 考（どの時間を充てたか）
第1学年	4 5 時間	国語、音楽、美術、保健体育各 5 H、学裁25 H
第2学年	4 5 時間	音楽、美術、保健体育、選択各 5 H、学裁25 H
第3学年	3 5 時間	保健体育、技術家庭各 5 H、選択 6 H、学裁19 H

本年度は、「総合的な学習の時間」を過程表に位置付けて実施することはせず、「短期集中型」として年間計画に適切に位置付けて展開することとした。

(4) 内容と単元構成

本年度の学習テーマや内容構成に当たって次の検討事項を設定した。

現在までの取組を再評価、整理し「総合的な学習の時間」のねらいや目標に即して工夫・改善を進める。

- ・目的、目標の見直し
- ・「学び」の見直し
- ・学習内容、単元構成の見直し
- ・指導方法、指導形態、指導体制の見直し

環境、国際理解、情報などの教科の枠を超えた横断的・総合的な学習を盛り込む。

「学び方」を学ぶ、「生き方」を学ぶというねらいに即したのものになるよう学習方法や学習形態を工夫する。

- ・「つかむ」「追究する」「深める」の学習スタイルの工夫
- ・「豊かなふれあい」の場の設定

学習テーマや内容について、「自己表現力の育成」にかかわる研究成果を生かしながら、各教科や道徳、特別活動の重点との関連を図る。

- ・教科で実践してきた課題選択学習や調べ学習の導入
- ・発表会や交流会における表現方法や視聴覚機器の工夫
- ・レポートや作品などの学習成果のまとめの工夫
- ・表現における国語科、情報における技術科など教科等との関連
- ・自己評価、相互評価など多様な評価の工夫
- ・生徒会の本年度重点ボランティア活動との関連

生徒や地域の実態を考慮した学習内容や学習方法を設定する。

3年間の系統性を重視してカリキュラムを計画、実施するため、全体テーマ及び各学年の学習テーマを設定する。

【全体テーマ『生き方と学び方の探究』】

学年	学習テーマ	主 な ね ら い
第1学年	「自然と人間」	・基本的な学習スキルや学習スタイルの習得を目指す。 ・「体験」をより重視する。
第2学年	「地域社会と人間」	・テーマ選択の多様化や学習グループの小集団化を図り、自己学習能力をより高める。 ・地域との関連を深める。
第3学年	「ふるさとから世界へ・将来への展望」	・3年間の総まとめとして、今までの成果を活用し、問題解決的な学習を盛り込む。 ・社会への貢献や将来の生き方につなげる。

指導体制は学年部を中心に指導するものとし、生徒の学習単位も学級集団以外にテーマ別の学習グループを編成をするなど工夫する。したがって、指導体制に無理の生じない内容となるよう配慮する。

(5) 年間計画

以上の点に留意しながら、「総合的な学習の時間」の年間計画を作成した。

第2学年の指導計画とともに、次ページに示す。

(6) 地域との連携

「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムは、地域との連携を抜きにして考えることはできない。地域連携を進めるに当たっての基本的な考え方を次のように整理した。

地域に根ざした特色ある学校づくり、地域に開いた学校づくりという観点から、学校を地域への情報発信基地として位置付ける方向を目指す。

生徒の生活基盤は地域にあるということを基本に、「ふるさとを愛する心」や「社会貢献の心」を育てるためにも地域教材を積極的に開発してカリキュラム化する。

保護者や地域の人々が積極的に学校教育に参画できる機会をつくる。従来の授業参観や懇談会だけでなく「参加・体験型の授業」等の工夫をする。発表会や体験学習においても積極的に参加できるようにする。特にPTAとの連携を強め組織化を図る。

生徒の学習活動の支援者、社会人講師として学校教育に参画することを保護者や地域の人々に依頼し、その情報を蓄積して人材のデータベース化を図る。

(1年)・コスモス栽培にかかわって2名 ・コスモスの押し花づくりにかかわって5名

(2年)・福祉・職業体験にかかわって21名(車椅子・アイマスク・点字・手話)

・豆腐づくりにかかわって1名

校外での体験学習の場を積極的に開発する。

(1年)休耕田の借用

(2年)福祉・職業体験に伴う事業所や施設の開発、協力依頼(43カ所)

(3年)ボランティア活動にかかわる施設への依頼

学校での取組や実践しようとする趣旨、内容等を機会あるごとに保護者や地域に積極的に知らせていく取組を進める。

学年	学期	テーマ	C E L ~ Class for(生き方と学びの探求)				
			体験学習を中心とした内容	福祉・ボランティア関係の内容	表現力の育成と関わる内容(教科指導以外)	H 12 年 度 導 入 内 容	
第一学年	第一学期	自然と人間 4.5H	淡路島自然体験学習(19H) 伝統文化・環境 勤労生産・自然・情報 事前学習(7) 体験学習(9H) 事後学習(2H) 発表会(1H)		(自分史の記録 - 5つの重点具体化) <国語> 意見発表会(5H) 表現 事前学習(2H) 発表会(3H)	農業作物の栽培・生産(10H) 栽培計画(2H) 畑作り、田作り(2H) 植え付け(6H) 除草、土盛り(課外)	
	第二学期			体育大会(老人の招待) 福祉 合唱コンクール(老人の招待) 福祉		農業作物の栽培・生産(10H) 収穫、加工(6H) 収穫祭、販売(体育祭バザー) レポート作成(2H) 報告会(2H) 福祉と関連	コンピュータ基礎講座 情報・表現 (2H)
	第三学期		<理科> プラネタリウム体験学習(4H) 事前学習(1H) 体験学習(2H) 事後学習(1H)	独居老人への手紙 福祉 老人ホーム慰問 福祉	学年交流会(2H) 表現	(夏季作品展)	コンピュータ基礎講座 情報・表現 (2H)
第二学年	第一学期	地域・社会と人間 4.5H	市内での体験学習(25H) 進路・地域・伝統文化 環境・福祉・職場 事前学習(5H) 体験学習(14H) 事後学習(3H) 発表会(2H) まとめ(1H)	七夕老人ホーム慰問 福祉	(自分史の記録) (5つの重点の具体化)		コンピュータ基礎講座(2H) 情報・表現
	第二学期			福祉体験学習 福祉(7H) 事前学習(2H) 体験学習(2H) 事後学習(2H) 発表会(1H) 独居老人への年賀状(1H)福祉			
	第三学期		自然教室(ｽｷｰ)(6H+6H) 自然・健康・体育 地理・歴史・情報 環境 (ｽｷｰ体験学習6H) 事前学習(4H) 発表会(1H) 体験学習(6H) 事後学習(1H)	老人ホーム慰問	学年交流会(2H) 表現	(夏季作品展)	コンピュータ基礎講座(2H) 情報・表現
第三学年	第一学期	ふるさとから世界へ・将来への展望 3.5H	進路先調べ(14H) 進路・情報 事前学習(4H) 体験学習(5H) 事後学習(3H) 発表会(2H)		(自分史の記録) (5つの重点具体化) 意見発表会(5H) 表現<国語> 事前学習(2H) 発表会(3H)	課題研究(10H) 3年間の学習のまとめ ボランティアサービスの 取組 福祉・地域・環境等 課題設定 グループ編成 計画立案	
	第二学期					(夏季作品展)	学習(体験、調査等) 考察・まとめ 発表準備 発表・交流 課題研究発表会(4H)
	第三学期		マナー体験学習(6H) マナー・国際理解 事前学習(1H) 体験学習(5H)	老人ホーム慰問	卒業文集制作(2H) 表現 <国語>		講演会(1H) 社会への旅立ち 国際・進路・人権等

第2学年「総合的な学習の時間」年間指導計画

月	学習内容	時数	学習活動	指導形態	実施場所	備考
5	体験学習(1)事前学習(オリエンテーション) 体験学習(2)事前学習(課題選択・学習計画) 体験学習(3)事前学習(体験内容の調査・理解)	1 2 2	・体験学習の流れや意義を理解する。 ・体験学習の個人の課題選択、グループ編成と学習計画 ・体験先と仕事について調査し、体験学習の内容を明確にする。	各学級 各学級 各グループ	各教室 各教室 各教室	進路・地域・環境・福祉 道徳との関連
6	体験学習(4)事前学習(事業所への訪問) 体験学習(5)体験学習(1日目) 体験学習(6)体験学習(2日目) 体験学習(7)事後学習(学習内容の整理) 体験学習(8)発表会(クラス内発表) 体験学習(9)発表会(学年内発表) 体験学習(10)学習まとめ(学習成果のまとめ) コンピュータ基礎講座(1)	2 6 6 3 1 1 1 1	・各グループで事前に体験先を訪問し挨拶と内容確認。 ・各事業所で職場体験学習を実践する。 ・各事業所で職場体験学習を実践する。 ・各グループで体験内容をまとめる。 ・各学級内で、グループごとにまとめた内容を発表する。 ・グループの代表がまとめた内容を発表する。(学年全体) ・体験学習の自己の取組を振り返りまとめる。 ・インターネットの基本操作を学ぶ。	各グループ 各グループ 各グループ 各グループ 各グループ 各グループ 各グループ 各学級	各教室 各事業所 各事業所 各教室 各教室 各教室 体育館 コンピュータ室	表現方法の工夫 自己評価・相互評価 技術家庭科との連携
7	コンピュータ基礎講座(2)	1	・インターネットの基本操作を学ぶ。	各学級	コンピュータ室	技術家庭科との連携
1 1	福祉体験学習(1)事前学習(意義について) 福祉体験学習(2)事前学習(福祉について) 福祉体験学習(3)体験学習 福祉体験学習(4)事後学習(学習内容の整理) 福祉体験学習(5)事後学習(学習内容の整理) 福祉体験学習(6)発表会(学年内発表)	1 1 2 1 1 1	・体験学習の意義・目的を学ぶ。 ・福祉についての事前学習をする。 ・福祉についての体験をする。 ・各グループで体験内容をまとめる。 ・各グループで体験内容をまとめる。 ・グループの代表がまとめた内容を発表する。	各学級 一斉 グループ 各学級 各学級 一斉	各教室 体育館 各教室 各教室 各教室 体育館	福祉(車椅子・アイマス ク・点字・手話体験) 道徳との関連 表現方法の工夫 自己評価・相互評価
1 2	独居老人への年賀状	1	・独居老人への年賀状を作成する。	各学級	各教室	福祉
2	コンピュータ基礎講座(3) 自然教室(1)事前学習(意義について) 自然教室(2)事前学習(テーマ別学習) 自然教室(3)発表会(クラス内発表) 自然教室(4)体験学習(自然教室(スキー)) 自然教室(5)事後学習(学習内容の整理) 1	1 1 3 1 6 1	・コンピュータを操作する。 ・体験学習の意義・目的を学ぶ。 ・自分たちの興味・関心に応じてテーマを選択し、調べ学習をする。(長野県の歴史・産業・自然・スキー等) ・学級内での発表の準備をする。 ・各学級で事前学習の内容を発表する。 ・黒姫高原の自然や地域社会の生活文化を体験する。 ・各グループで体験内容をまとめる。	各学級 各学級 各グループ 各グループ 各グループ 各グループ 各学級	コンピュータ室 各教室 コンピュータ室 各教室 各教室 各教室 黒姫高原スキー場 各教室	技術家庭科との連携 歴史・産業 自然・スキー インターネットや図書 室を利用した調べ学習 特別活動との連携 表現方法の工夫 自己評価・相互評価
3	コンピュータ基礎講座(4) 学年交流会	1 2	・学年交流会の発表準備のための資料作りをコンピュータで作成する。(ワープロ) ・1、2年生でお互いに1年間の学年の取組を交流する。	各学級 一斉	コンピュータ室 体育館	技術家庭科との連携 事前取組・放課後

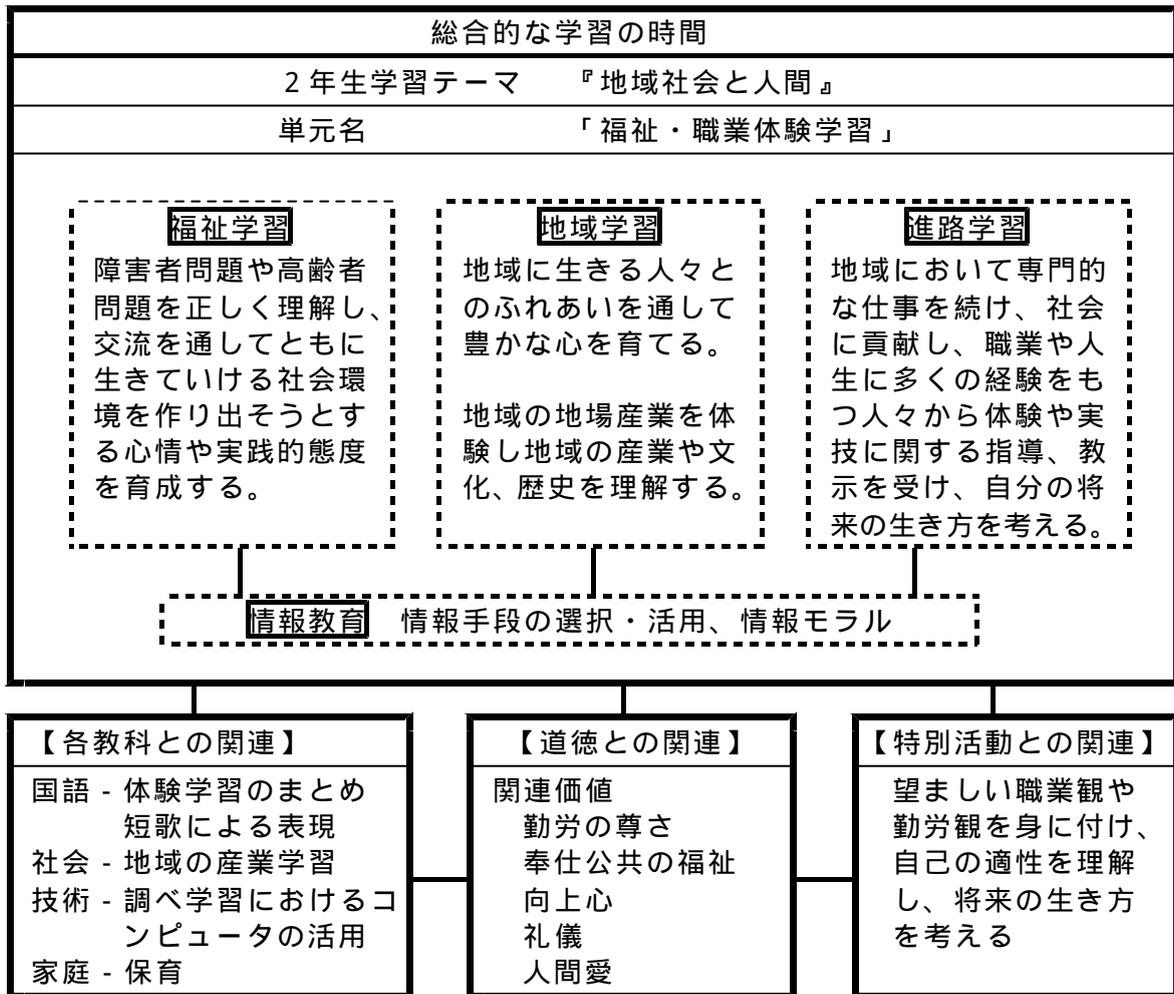
4 「総合的な学習の時間」の展開例

- 「2年生福祉・職業体験学習の取組」から -

「生き方と学び方の探究」をテーマにした「総合的な学習の時間」において、第2学年では「地域社会と人間」を学習テーマとして学習活動を展開する。この中で「福祉・職業体験学習」は中心的な単元となっている。従来、進路指導の工夫・改善の一環として特別活動等において各学校で取り組まれてきた内容ではあるが、これを単なる職場体験に留めず、「総合的な学習の時間」の単元として取り上げ、地域や家庭との連携を通して下記の構想に示すような多様な力を育成し、学び方や生き方とかかわった総合的な学力に発展させることを目指したものである。

(1) 学習課題の設定

ア 単元の構想



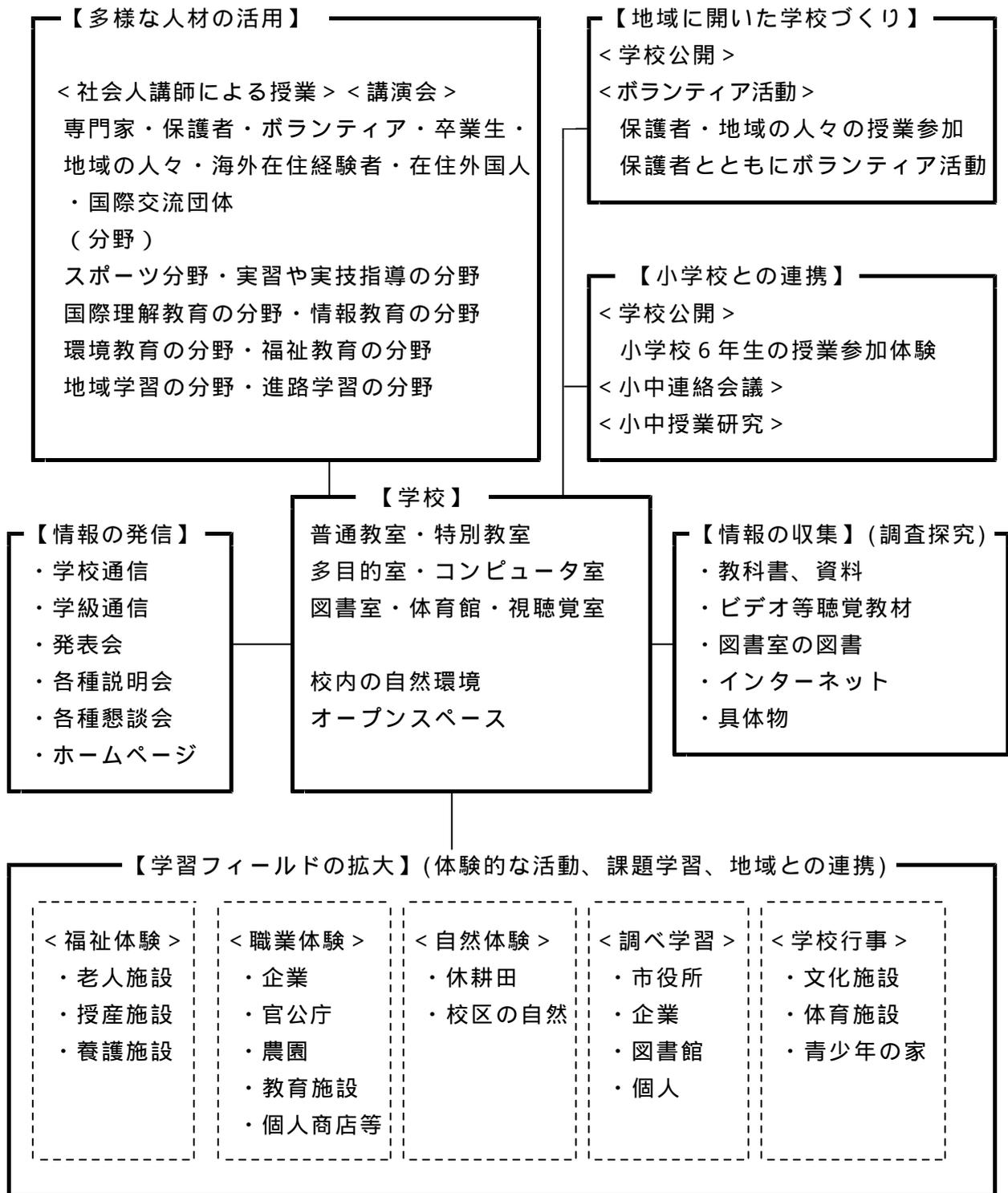
イ 体験学習受け入れ施設

体験学習受け入れ施設の種類	施設数	施設の具体例
校区内の農園、園芸店での作業体験等	8 箇所	茶・果実・野菜栽培農家、園芸店
校区内の福祉施設での介護体験等	5 箇所	特別養護老人施設、授産施設
市内の保育園、幼稚園での保育体験等	6 箇所	保育園、幼稚園
市内の製造業での作業体験等	7 箇所	金糸・電気製品製造工場
市内のサービス業での販売等の体験等	10 箇所	スーパーマーケット、コンビニエンスストア、食料品店
市内の公共施設での体験等	7 箇所	市役所、図書館、消防署

(3) 身に付けたい力と教師の支援

総合的な学習の時間			
2年生学習テーマ『地域・社会と人間』			
単元名 「福祉・職業体験学習」			
	引き出したい力	支援の方法	具体化の方策
生き方を学ぶ	豊かなふれあいの中で豊かな心を育てる	地域の人々と直接ふれあう機会の設定	・事前の訪問設定 ・2日間の体験学習
		障害者や高齢者と交流する機会の設定	・事前、事後学習の充実 ・道徳、特活との関連を重視
		地域の産業や文化、歴史にふれる機会の設定	・保護者との連携
生き方を学ぶ	個性を伸ばす	興味、関心に応じた課題選択学習の導入	・オリエンテーションの充実 ・学習グループ編成の工夫
		学習方法の多様化	・情報の収集における図書館や情報機器の活用
生き方を学ぶ	仲間と協力、共同、共感する	自分を振り返る機会の設定	・レポート、自己評価の工夫
		グループでの共同作業	・相互評価等評価の充実
学び方を学ぶ	自分で考え、自分でやり遂げる力を育てる	互いのよさを認め合える機会の設定	・グループ活動の視点の明確化 ・生徒によるルールづくり
		課題設定の工夫	・課題選択による自己決定場面を作る
学び方を学ぶ	基本的な学習方法を修得する	学習方法の多様化	・場面に応じ多様な方法を示唆
		小集団の学習グループ編成	・1グループ2～4名のグループ編成 ・課題テーマごとに教師の支援体制づくり(学年部全員) ・PTAへの協力支援依頼
学び方を学ぶ	基本的な学習方法を修得する	評価の工夫	・自己評価、相互評価
		達成目標の明確化	・オリエンテーションの充実 ・PDSサイクルの確立
学び方を学ぶ	基本的な学習方法を修得する	「つかむ」「追究する」「深める」の学習過程の重視	・学習の道筋の明確化 ・体験を中心にした学びの楽しさの強調(情報機器含む)
		「自己表現力の育成」の場面の重視	・レポートやポスターによるまとめの内容や発表方法の工夫 ・発表会への体験学習関係者や保護者の参加 ・教科との関連(国語「短歌」等)
学び方を学ぶ	基本的な学習方法を修得する	学習方法、形態の多様化	
		評価の工夫	

(4) 学習環境の工夫と整備



(5) 評価の観点と評価の実際

「PDSサイクル」を重視した取組では、学習活動の各過程で指導と評価の一体化を図り、生徒の学習意欲を高めたり学びの振り返りを促すとともに、教師自身が指導・支援方法を改善することが大切である。特に、学習のプロセスを重視する「総合的な学習の時間」では、選択する学習課題によって目標が異なってくる場合が多い。何をどのように評価するのか、そのポイントを明確にした上で次のような評価活動を実践した。

ア 自己評価

各学習過程において自分の学習を振り返り評価を行う。レポートや感想文の最後に自己評価欄を設けておいて、教師からのコメントも記入する。

<主な評価項目> ...それぞれ5段階で自己評価

- ・意欲的に学習に取り組めたか。
- ・学習の目標が達成できたか。
- ・学習方法を自分なりに工夫できたか。
- ・グループの仲間と協力して取り組めたか。
- ・次への課題が明らかになったか。
- ・わかりやすく工夫して発表できたか。 等

また、レポートや感想文の中で自分の学習を振り返り、確かな自己評価ができるように、その項目を明示するなど工夫した。

- ・楽しかったこと
- ・自分が学んだこと、プラスになったこと
- ・自分ががんばったこと
- ・施設や職場で働いている人を見て感じたこと
- ・先生や友達、家族に知らせたいこと
- ・今後の生活に生かしたいこと
- ・苦しかったこと
- ・友達のがんばりを見て感じたこと

イ 相互評価

学習活動の振り返りにおける相互評価は、他の生徒からの評価によって自己の学びを客観化するとともに、他の生徒の学習成果に触れて自己の学習活動をさらに深化、発展させる契機となる。この取組では、下の写真のように体験学習の成果をポスター形式でまとめて相互に発表、評価し合うポスターセッションを取り入れ、その際、次ページの資料を用いて相互評価を実施した。

なお、後述する施設・事業所からの感想や助言も学習活動の振り返りに有効な評価となっている。

【ポスターセッションによる体験学習発表会】



体験学習発表会相互評価表

組番氏名 _____

発表順	班 ・ 男 女	訪問した 事業所・ 施設名	ポスターの 絵について	発表内容に ついて	発表全体を 通して	発表態度に ついて	総合	各グループの感想
			内容のよく わかる絵を 丁寧に書け ているか？	体験した内 容を、しっ かり伝えて いるか？	絵と発表内 容が一致し た物であっ たか？	みんなに聞 こえるよう に大きな声 で読んでい たか？		
1			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
2			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
3			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
4			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
5			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
6			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
7			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
8			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
9			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
10			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
11			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	
12			5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	

僕(私)は□組の体験学習発表会では□班の男子、女子の発表内容が1番良かったと思います。

僕(私)は□組の体験学習発表会では□班の男子、女子の発表内容が2番目に良かったと思います。

ウ 教師の評価

ねらいに対応した評価観点と評価項目を設定し、学習活動の各過程で評価を実施した。

ね ら い	評 価 の 観 点
< 生き方を学ぶ > 豊かなふれあいの中で豊かな心を育てる 個性を伸ばす 仲間と協力、共同、共感する	課題選択と自己決定 ふれあい、交流する力 自己評価 自己深化
< 学び方を学ぶ > 自分で考え、自分でやり遂げる力を育てる 基本的な学習方法を習得する	企画力・構想力 課題解決への意欲 基本的な課題解決方法の習得 自己表現力

< 学習活動の評価の観点と評価の項目 >

学習過程	評価の観点	評価の項目
つかむ	課題選択と自己決定	<ul style="list-style-type: none"> ・これはやってみたいという課題が発見できたか。 ・本当に体験し追究したい課題を決定できたか。
	企画力、構想力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に至る見通しと方法を探し出せたか。
追究する	課題解決への意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く自分の課題に取り組むことができたか。
	基本的な課題解決方法の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な手段で情報収集できたか。 ・情報を整理し、考察、判断できたか。 ・解決の過程で活動を振り返り、新たな課題を発見しようとしたか。 ・体験を通して課題の解決をより確実にできたか。
	ふれあい、交流する力	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に人々とふれあうことができたか。 ・他人の努力や心情を理解しようとしたか。 ・自分の思いや姿勢が伝わるよう努力できたか。 ・仲間と協力、共同して活動できたか。
深める	自己表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・発見したり考えたことをわかりやすくまとめることができたか。 ・相手に分かりやすく伝えることができたか。
	自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題は解決できたか。 ・学習活動への姿勢や成果を自己評価できたか。
	自己深化	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動によって身に付いた力を自覚できたか。 ・さらに追究したい自己の課題を発見できたか。

このような評価を担当の教師が行い、担任に伝えるとともに各場面で適切に生徒に返し、活動意欲を高めるよう配慮した。これらの評価を総合した総括的な評価では、数値化した評定は行わないが、通知表等において所見として記述し生徒・保護者に通知した。

< 生徒の感想から >

「老人ホームを訪問して」

最初は何をすればいいが分からなかった。でも向こうの人たちがいろいろと教えてくれた。一番最初に任された仕事はおじいさんやおばあさんの部屋の掃除だった。……お昼ご飯の時おじいさんやおばあさんを席に連れて行ってあげた。「ありがとう」といわれたときすごくうれしかった。ご飯を配るのも手伝った。寮母さん達は一人でご飯を食べられない人たちの手伝いをしていた。お昼が終わって片付けをしてからおばあさん達とボールを使ったり歌を歌ったり折り紙を使って遊んだ。みんな、すごく楽しそうに遊んでいた。うちのおばあちゃんは私が4年生の時になくなったので、おばあちゃんやおじいちゃんと遊べてすごくよかった。小学校の頃将来の夢という題でおじいさんやおばあさんの面倒をみる仕事につきたいと書いていた。だから、老人ホームでどんな仕事をするのかがわかってよかった。二日間すごく心がなごみました。ありがとうございました。



【体験学習の様子】

「園芸店で学んだこと」

私を合わせて3人で訪問した園芸店は、2～3人は店員さんがいると思っていたけれど、1人でやっておられました。店での仕事は、水やり、花殻つみ、値札・名札付け、苗の整理などをしました。水やりでも、たくさんの花にやるんだからすごく疲れます。少しでも水が足りないとすぐに花が弱ってふにゃふにゃになってしまいました。水やりは重要です。そして花がら摘みも重要でした。枯れた葉や折れた花を摘みとらないと、次の新しいものが生えてこないそうです。量が多いからしんどいでしたが、自分がそうじした花がきれいになっているのを見るとすごく気持ち良いです。「頑張ってたかなあ。」と思いました。あと、花屋さんは薬を扱うときもあるので資格がいるそうです。花屋をするのに資格なんているとは知りませんでした。

2日目の帰る前に、寄せ植えをさせてもらい、植え方を教わりました。植えた花の名前は分かりませんが、きれいにできました。ちなみに、それはいただきました。嬉しかったです。2日間とても優しく親切に指導してくださってとても嬉しかったです。勉強にもなったし、教訓にもなりました。いただいた花も大切にしたいと思います。有意義な体験学習でした。

(6) 指導上の留意点

「総合的な学習の時間」では、校外の自然や生産・商業活動の現場、様々な施設などが学習活動の場として重要な意義をもつ。したがって、体験的な学習を通して社会生活上必要なマナーや公衆道徳、感謝の気持ちや奉仕的な心情、さらに自己や周囲の人々の安全を意識した行動等が一層高まるよう、事前に十分な配慮と指導が必要となってくる。そのためには、保護者やPTA、体験先の施設などとのきめ細かい連携が不可欠である。

「総合的な学習の時間」で福祉・職業体験学習を進めるに当たって、次の点に配慮した。

学校から地域に出かけての活動という観点から、中学生として身に付けなければならないマナーの指導を徹底した。

・言葉遣い、挨拶等の礼儀 ・中学生らしい服装 ・はきはきした態度 等

当日は自転車で移動するということから、命に関わる問題として交通安全指導を徹底した。

- ・事前指導 ・行動計画表の作成 ・当日のチェックポイント設定
- ・危険個所の指導 ・P T Aへの協力依頼 等
施設、事業所との連携
- ・受け入れ施設、事業所の開拓（学年教師で分担し43か所を開拓）
- ・事前打ち合わせの徹底（事前、事後計5回程度の訪問）
当日の体験内容、時間、受入人数、留意事項、必要物品、健康等での要配慮生徒等
- ・当日の連携（担当教師による全施設・事業所訪問、状況把握、生徒への支援・指導等）
- ・事後の連携（アンケート調査実施・・・生徒の様子、取組への意見や今後への助言等）
- ・体験学習の成果発表会への招待
生徒指導上の課題に対して
- ・グループ編成の工夫（リーダーの配置）
- ・ルールづくりを学級委員会の手で（特別活動との連携）
- ・家庭との連携
- ・学習過程での適切なガイダンス（学習活動への意欲、不安や悩みの解消）
P T Aとの連携
- ・P T A本部役員に、体験学習当日の各事業所等への訪問や生徒への支援を依頼
- ・体験学習成果発表会への参加

このような取組を経て実施した福祉・職業体験学習の結果、施設・事業所から次のような評価や助言を得た。生徒が自己の学びを振り返り生き方を考えるきっかけとして、また、カリキュラムの改善、充実を図るための貴重な資料として生かすことができた。

<施設・事業所への事後アンケートから（42か所）>

	今回の体験学習を受け入れて	このような取組に関して
・よかったと思っている	83.3%	97.7%
・どちらとも言えない	14.6	0.0
・よくなかったと思う	0.0	0.0
・その他	2.1	2.3

<参加した中学生に対する感想>

- ・年々目立つ中学生が増えるこのごろ、今時めずらしいくらい、純真で中学生らしい子どもたちに出会って少しほっとした気持ちです。これからもよき指導をお願いします。
- ・利用者の方、職員に対してきちんと挨拶ができとてもよい印象を受けました。利用者の方と一緒に昔の体験談を聞かせていただくときも熱心に興味を持って聞いておられた。作業等も丁寧にできていました。（老人施設）
- ・閉鎖的な施設生活を送っている利用者にとって外部の訪問者は新鮮なものと感じ取られています。はじめての体験でとまどうことが多かったようですが、何かを感じ取られたことと思います。ややおとなしいくらいはありますが、本人なりによく努力していました。（養護施設）

< 今回の取組に対する感想 >

- ・特に福祉施設での実習は、子どもの頃からの「心のバリア」を取り除いていく意味でも大変有効であると思います。今後も継続を。(福祉施設)
- ・社会、家庭の在り方がだんだん難しくなってきた昨今、こうした体験学習は、これから社会に出ていく中学生にとってとても貴重な経験だと思います。大人が仕事をしている姿を見て何かを感じてくれることがあるでしょうし、何らかでプラスになると思います。2日間実施は、保育園の場面、明日への期待(保育園児の)もありいいですね。(保育園)
- ・学業の途中で1日でも2日でも現実の仕事を体験できることは最高によいこと必要だと思う。また、他人に「叱られる」ということが大事なことです。(個人商店)
- ・一日目は炎天下での畑仕事を一生懸命がんばってくれました。二日目は雨のために私たちのつくったお茶がどのようにして抹茶になるのかの行程を製茶工場に見学に行きました。またJAでのお茶の入札、競売の様子なども少し勉強になったと思います。時期的には5月が一番畑仕事の内容が理解できると思うのですが。(農園)

5 「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムの評価と改善に向けて

(1) 単元カリキュラムの評価と改善

単元カリキュラム：ここでは、学校教育目標等カリキュラム全体にかかわる事項も含めた単元指導計画(次ページ参照)なので、「カリキュラム」を用いている。

「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム開発では、実践を通じた点検、評価、改善が重要である。そのために、まず各単元カリキュラムについて、その構想・計画 実施 評価・改善の過程を一枚の様式にまとめることで、カリキュラム改善のための資料化を試みた。

次ページの資料『「総合的な学習の時間」の単元カリキュラム改善のための資料』は、縦軸に「P(構想・計画) D(実施) S(評価・改善)」の流れを示し、その流れに沿って下記の内容を配置して、一目で単元カリキュラム開発の過程と内容が把握できるように工夫したものである。

【P(構想・計画)】	教育目標、目指す生徒像、学校・生徒・地域の実態 「総合的な学習の時間」のねらい 単元名、実施学年、実施時期 単元構成の視点、学習環境・教材等、家庭・地域との連携
【D(実施)】	単元の学習活動、活動への支援・指導等、学習活動の評価観点 (それぞれ学習過程に対応して記述)
【S(評価・改善)】	単元評価の観点 成果、改善事項

この資料を集約することによって、各単元のカリキュラムの構想・計画や実施状況、相互の関連等を全体的に把握し、点検、評価に生かすことができた。今後もカリキュラム開発の資料として活用できるものと考えている。

「総合的な学習の時間」の単元カリキュラム改善のための資料

構
成
要
素
・
言
語
画

【教育目標】 知・徳・体の調和のとれた教育を展開し、生涯にわたる学習の基盤を培い、校訓に示す心身ともに健全で個性豊かな生徒の育成を目指す。

《校訓》 1 自 主 意欲的に学ぶ生徒 積極的に行動する生徒
2 友 愛 助け合い励ましあう生徒 人権を尊重し生命を大切にする生徒
3 礼 節 礼儀正しい生徒 規律ある生活をする生徒

【目指す生徒像】 「自己をしっかりともち、よく考え、自己を豊かに表現できる生徒」
・個性（創造性）を伸ばす ・自分で考え、自分でやりとげる力を育てる
・豊かなふれあいで豊かな心を育てる

【「総合的な学習の時間」のねらい】
「生き方」を学ぶ…豊かなふれあいの中で豊かな人間性を育成する
「学び方」を学ぶ…生涯学習体系の基礎として、学び方や考え方の基本的な学習スタイルを身に付ける

【学校・生徒・地域の実態】
学校：「個性豊かな生徒」の育成を目指し、「自ら学ぶ意欲」を主題にした教育課程研究の成果を「21世紀プロジェクト」として推進。生徒数漸減の中で教職員組織の機能化が必要。特色ある学校づくりの中で生徒指導等の諸課題の克服を図る。
生徒：全般に純朴で協調性があり活動に積極的に参加できるが、達成志向、主体性、自己表現力等の面では育成を図る必要がある。学習、生活面に課題をもつ少数の「揺れる生徒」への対応も必要。
地域：近郊農村地域と新興住宅地域を校区とし、保護者や地域住民の学校への期待は大きい。校区の豊かな自然環境、歴史・文化環境、地域の産業や諸施設、地域住民の期待や協力を学校教育に活用したい。

単元名 「福祉・職業体験学習」 (総時数25時間) 実施学年 第2学年 実施時期 5月～6月

単元構成の視点	学習環境・教材等	家庭・地域との連携
「自然と人間」をテーマとした第1学年での学習を受けて、第2学年では「地域社会と人間」をテーマに学習活動を展開する。地域の地場産業や福祉施設での体験を通して地域に生きる人々とふれあい、地域の産業や歴史、文化、障害者や高齢者問題を理解することによって、地域社会に積極的に参加し、共生社会を創り出そうとする心情や実践的態度を育成するとともに、職業や人生における将来の自分の生き方を考えさせる取組とする。 国語、社会、技術・家庭科等の教科や道徳、特別活動との関連を積極的に図ってねらいを達成する。	課題設定、調査探求、学習成果発表における多様な情報手段、学校施設の活用 (図書資料、マルチメディア教材、インターネット、コンピュータ室、視聴覚機器等) 体験学習の場としての地域の多様な産業・諸施設(事業所、個人商店、農家、官公庁、公共施設や老人福祉施設、養護施設等) 福祉・職業体験にかかわる地域の多様な人材や保護者とその専門的知識、体験、人生観等 体験学習によって得られる地域の自然、産業、文化、社会にかかわる知見、体験や感動、課題	体験学習先の施設・事業所との連携 ・受け入れ先の開拓 ・事前打合せの徹底(内容・人数・時間・持物・留意点) ・当日の連携(体験先訪問、生徒の支援・指導等) ・事後の連携(アンケート依頼、意見や助言) ・学習成果発表会への招待 家庭との連携 ・服装、マナーの指導、体験内容への関心や励まし PTAとの連携 ・体験先への支援依頼、当日の訪問等、発表会参加(以上の内容のデータベース化)

	単元の学習活動	活動への支援・指導	学習活動の評価観点
つかむ : 自己決定	オリエンテーション (1H) 学習目標の理解 ・学習の意味、学習の仕方 学習の見通し ・学年テーマの理解 課題選択と計画 (2H) テーマ選択 ・個人テーマの選択 ・グループ編成 学習計画の作成 ・課題追究の計画づくり ・調査の仕方、訪問の仕方	学習のねらいと見通しが理解できるようにする。 ・将来の社会で生き抜くために必要な力 ・保護者への広報によって家庭の協力を得る。 個人のテーマ選択が適切にできるように支援する。 ・資料や過去の取組の感想文等を紹介する。 ・取り組みたいことがらを焦点化、具体化した課題 ・安易な課題や非現実的な課題等への適切な対応 テーマに応じた適切な人数のグループ編成 調べ学習の内容や方法のポイントの明確化 ・テーマに応じた調査方法、訪問先、活動内容	課題選択と自己決定 ・これはやってみようという課題が発見できたか。 ・本当に体験し追究したい課題を決定できたか。 企画力、構想力 ・課題解決に至る見通しと方法を探し出せたか。 課題を発見する力 広げ、深める力 課題追究への意欲 自己決定・自己実現の意志
追 究 す : 課題解決	事前調べ学習 (2H) 福祉・職業体験にかかわったテーマの情報収集活動 ・高齢者、障害者問題 ・地場産業、職業と資格 体験学習 (2H) 事前の施設訪問 ・事業所、施設へあいさつ ・体験活動の内容確認 体験学習 (2日間・12H) 直接体験 1日目の活動の自己評価、 2日目への課題の把握 2日目の活動の充実	テーマや内容に応じた適切な情報の収集先・内容に関する支援 ・図書館やインターネット等情報手段の適切な活用 訪問施設等への渉外の方法・内容に関する支援 目的や内容を明確に把握できるようにしておく。 ・事前確認、訪問時の記録、事後確認、課題解決 訪問先の状況やマナーに配慮できるようにする。 自分たちの健康安全に配慮できるようにする。 体験学習先の施設・事業所との連携 ・事前打合せ、当日の連携 生徒への支援、励まし、指導 ・訪問先や様々な人々への配慮ができるようにする ・健康や安全を確保できるようにする。 ・1日目の反省を2日目に生かせるようにする	課題解決への意欲 ・粘り強く自分の課題に取り組むことができたか。 基本的な課題解決方法の習得 ・適切な手段で情報収集できたか。 ・情報を整理し、考察、判断できたか。 ・解決の過程で活動を振り返り、新たな課題を発見しようとしたか。 ・体験を通して課題の解決をより確実にできたか。 ふれあい、交流する力 ・積極的に人々とふれあうことができたか。 ・他人の努力や心情を理解しようとしたか。 ・自分の思いや姿勢が伝わるよう努力できたか。 ・仲間と協力、共同して活動できたか。 意欲、意志、継続する力 行動力、応用力、自己評価力 協調性、交流力
深 め る : 自己表現	事後学習 (3H) 体験学習のまとめと考察 ・レポートを作成しまとめ ・発表会ポスター作成 ・発表リハーサル 成果の発表 (2H) 学習成果発表会・交流 ・級友の体験に学ぶ ・自己評価、相互評価 学習のまとめ (1H) 自己評価・感想 ・学びの振り返り ・今後に生かすこと ・短歌の作成、お礼状作成	学習のまとめのポイントの明確化、発表方法の明示 ・内容、方法、成果と課題を明確にしたまとめ ・相手が理解しやすい報告内容や発表の仕方の工夫 自己評価・相互評価の観点の明確化と支援 ・学習を通して発見できたこと、身に付けたこと ・達成感、満足感を大切に適切な助言 ・次の活動や課題解決への意欲付けと励まし ・今後の学習や生活、人生に生かそうとする意欲 ・多くの人々の支援に気付き感謝する気持ち	自己表現力 ・発見したり考えたことをわかりやすくまとめることができたか。 ・相手に分かりやすく伝えることができたか。 自己評価 ・自己の課題は解決できたか。 ・学習活動への姿勢や成果を自己評価できたか。 自己深化 ・学習活動によって身に付いた力を自覚できたか。 ・さらに追究したい自己の課題を発見できたか。

実
施

評
価
・
改
善

単元評価の観点

学習課題、学習方法は問題解決の能力や資質を高めたものであったか 生徒の実態に応じた学習活動であったか 生徒の主体性や創造性が引き出せ、伸ばせたか 生徒が自分の生き方を考える機会となったか 体験学習等で豊かなふれあいの場を設定できたか コンピュータ等の情報機器が有効に活用できたか	個々の生徒のニーズに応じた支援や指導ができたか 指導方法や支援方法を改善できたか 学習のねらい・方法等、共通理解して指導できたか 学年部組織として協力、連携して指導できたか 時間や指導者数等、指導体制に無理はなかったか 地域の教育資源を有効に活用できたか 保護者や地域の人材の協力を支援場面に生かされたか	自己評価、相互評価の観点や項目は適切であったか 学習過程の各場面で適切な評価ができたか ・生徒の意欲を喚起し学習活動に結び付けられたか ・生徒の疑問や課題に応えるような支援ができたか ・生徒の学習の振り返りを促すことができたか 生徒の学びを全体として把握し適切に評価できたか
--	--	--

成果
課題選択による自己決定やテーマ別小集団学習、体験学習、発表会等を通して生徒の学習意欲の高まりや主体的な学習姿勢が見られた。生徒が多様な学習方法や問題解決的な学習過程、発表の工夫等で身に付けた学び方や考え方等の成果を他の教科や活動場面で生かすことができるようになった。学びの場が地域に広がり、多様な人々や地域とのふれあいによって、社会貢献の態度、自然や文化を大切にする気持ち、人権尊重の態度等豊かな心を育成できた。また、地域に生徒のよさや学びの姿勢を伝え認識を深められた。
学年部で共通理解を深め組織的に取組を進めた結果、指導や支援、評価等における教科の枠を超えた取組や地域との積極的な連携姿勢などカリキュラム開発への理解が深まった。

改善事項
多様な学習課題、学習活動に対応した適切な指導・支援の方法や体制の工夫が必要である。
ねらいを達成するためには、生徒の学力実態を踏まえ、各教科等において基礎・基本を徹底することが不可欠である。
学習課題や学習方法における各教科等との関連を一層明確化するとともに連携を強化することが必要である。
学習活動を効果的に展開するための学習スキルを育成する場と計画、学習ノート等の教材を開発する必要がある。
より適切な評価基準(生徒の学習活動のめやすともなる)や生徒の学びの全体を把握するためのポートフォリオ評価の方法、生徒や保護者への評価の通知・活用の在り方等、評価の一層の改善が必要である。

評
価
・
改
善

(3) カリキュラム改善への視点

「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラム評価を通して次のような改善の視点が明らかになった。

ア 成果と考えられる事項

これまでの研究や取組の成果を「総合的な学習の時間」に位置付け、目指す生徒像や育成する力を明確にし、学校全体でカリキュラム開発の視点で取り組むことができた。

支援や指導、評価等において教科の枠を超えて取り組んだり、地域と積極的に連携しようとするなど、教職員自身の開かれた姿勢が顕著となった。

計画、実践、評価を校内組織や校内研修で繰返し協議する中で共通理解が深まった。

課題選択による自己決定やテーマ別小グループ学習、体験学習、発表会等を通して、生徒に学習意欲の高まりと主体的な学習姿勢が見られた。

生徒が多様な学習方法、問題解決的な学習過程、発表の工夫等で得た学び方、考え方を他の教科や活動場面で生かすことができるようになった。

学びの場が地域に広がり、様々なふれあいを通して、社会貢献の態度、自然や文化を大切する気持ち、人権尊重の態度など豊かな心の育成が図れた。また、地域の人々に生徒の良さや生き生きした姿を伝え、生徒や学校への認識を深める機会となった。

イ 改善を図るべき事項

教員数や担当時間等限られた人的・物的条件の中で、個々の生徒の多様な学びに対応できる効果的な指導・支援体制の工夫と教育活動の厳選・スリム化が不可欠である。

ねらいの達成のためには、生徒の学力実態を踏まえた各教科等における基礎・基本の徹底が不可欠であり、教科等との関連や相互の連携を一層図る必要がある。

学習活動を効果的に展開するためには、基本的な学習スキルを学習初期の段階で身に付けさせるための計画や学習ノート等の教材の工夫が必要である。

保護者の願いや生徒の興味・関心に応じたカリキュラム開発を進めるためには、学習成果の検証、再確認のための保護者や生徒へのアンケート等の実態調査が必要である。

小学校との系統性を重視し、地域に根ざした教材開発を進めるために、小学校との連携を一層緊密に図る必要がある。

より適切な評価基準、生徒の学びの全体を把握するためのポートフォリオ評価の活用、生徒や保護者への評価の通知・活用の在り方等、評価の一層の改善が必要である。

(4) 次年度に向けた改善事項

以上のカリキュラム評価に基づき、学習指導要領の全面実施を視野に入れて、次年度カリキュラムにおいて改善を図る事項を次のとおりとした。

「総合的な学習の時間」の指導計画の見直し

- ・学習のねらい
- ・学習テーマ
- ・学習内容と年間計画
- ・年間学習時数と週程表上の位置付け
- ・学習形態
- ・指導体制
- ・弾力的な時間の運用

選択教科の充実

- ・「総合的な学習の時間」との関連（時数や学習内容、コース、選択幅）
- ・基礎・基本コースの導入

年間行事計画の整理

- ・学校行事のスリム化
- ・「総合的な学習の時間」と他の行事、特別活動との関連
- ・学校行事の焦点化

平成14年度を見越した教科時数の設定と年間指導計画の作成

パート3 まとめ<中学校>

本研究の研究協力員として協力ねがっている学校では、長年にわたって「自ら学ぶ意欲」を主題とした教育課程研究や特色ある学校づくりの取組を進めてきている。「総合的な学習の時間」の「自ら学び自ら考え、問題を解決する力などの[生きる力]の育成や学び方やものの考え方の習得などのねらいの下、各教科等で身に付けられた知識や技能等を相互に関連付け、深め、総合的に働くようにする」という基本的なねらいを踏まえ、基礎・基本の徹底や教科等との関連を重視しつつ、「総合的な学習の時間」の充実をより一層図る必要がある。これらのことから、新学習指導要領に対応した新しい教育課程を創造するためには、このような意欲的な教育実践の豊富な蓄積を生かし、さらに発展させることが必要である。

中学校部会では、これらの点を踏まえ、「カリキュラム開発を考える」視点で「総合的な学習の時間」の具体化に取り組んだこの事例を取り上げたのである。

本研究では、「カリキュラム開発」の六つの視点に立って、学校や地域の特色を生かし、「総合的な学習の時間」の趣旨を踏まえた実践例を提示できたと考えている。

さらにまた、中学校では、教科担任制から生ずる教科間や教師間連携、校時表や週時程の工夫、一人当りの担当時間数等の課題や生徒指導上の課題等から、ややもすると「総合的な学習の時間」の本旨からそれた論議や取組に陥りやすいことが想定される。各学校において、「総合的な学習の時間」の趣旨の共通理解をより深め、学習活動及びカリキュラムの評価と改善・充実を図ることによって、新学習指導要領全面実施に備えたいものである。

こうした点からも本研究が「総合的な学習の時間」を位置付けたカリキュラムの改善・発展に寄与するものとなれば幸いである。

参 考 文 献

- | | | |
|------------------------------------|-------|--|
| 文部省 | 平成10年 | 教育課程審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の規準の改善について」(答申) |
| 文部省 | 平成10年 | 小学校学習指導要領 |
| 文部省 | 平成10年 | 中学校学習指導要領 |
| 文部省 | 平成11年 | 小学校学習指導要領解説 - 総則編 - |
| 文部省 | 平成11年 | 中学校学習指導要領解説 - 総則編 - |
| 文部省 | 平成11年 | 特色ある教育活動の展開のための実践事例集 - 「総合的な学習の時間」の学習活動の展開 - (小学校編) |
| 文部省 | 平成12年 | 特色ある教育活動の展開のための実践事例集 - 「総合的な学習の時間」の学習活動の展開 - (中学校・高等学校編) |
| 国立教育研究所(教科教育開発研究室、公民教育研究室、地学教育研究室) | | |
| | 平成11年 | 中学校における総合的な学習の時間のカリキュラムに関する研究 |
| 有園格・小島宏編著 | 平成7年 | 学校の創意工夫を生かす「総合的な学習」の展開
中学校の総合的な学習
ぎょうせい |
| 有園格・小島宏編 | 平成8年 | 「総合的な学習」の理論と実際
ぎょうせい |

村川 雅弘・小林 毅夫編著	平成11年	改訂小学校学習指導要領の展開 総合的学習編	明治図書
中野 重人編著	平成11年	改訂小学校学習指導要領の展開 明治図書	総則編
山極 隆編著	平成11年	改訂中学校学習指導要領の展開 総合的学習編	明治図書
水越敏行・木原俊行編著	平成11年	中学校 選択と総合的学習の新展開	明治図書
天笠 茂編著	平成11年	新しい教育課程と学習活動の実際総合的な学習	東洋館出版社
人間教育研究協議会編	平成11年	学校・教師が発揮する創意工夫 カリキュラムを 創る 教育フォーラム23	金子書房
天野 正輝編集	平成11年	教育課程重要用語300の基礎知識	明治図書
児島邦宏・佐野金吾編	平成12年	中学校「総合的な学習の時間」研究の手引	明治図書
柴田 義松編	平成12年	現代カリキュラム事典	有斐閣
柴田 義松著	平成12年	教育課程カリキュラム入門	有斐閣
宮原 修編者	平成12年	地域の人材・環境を生かす	ぎょうせい
天野 正輝著	平成12年	総合的学習のカリキュラム開発と評価	晃洋書房
浅沼 茂編集	平成12年	「総合的な学習」のカリキュラムをつくる 教職研修3月増刊号「総合的な学習」指導の手引 き 6	教育開発研究所
園部町	平成12年	新園部町発足45周年記念要覧	
園部町	平成12年	町勢要覧資料編	
園部町立園部小学校	平成6年	研究紀要 教育課程	
園部町立園部小学校	平成12年	学校経営管理計画	
園部町立園部小学校	平成12年	研究紀要	
城陽市立南城陽中学校	平成12年	教育計画	
岡山市立平福小学校	平成12年	研究冊子「おいでんせえ平福小学校へ」5年間の 集大成！ メディアを活用した総合的な学習！	